



コフナ社 社長

マニユエル・モロー

■プロフィール

1952年2月29日生まれ。パリのジャーナリズム高等学院でジャーナリズムを専攻。72年よりパスツール研究所アンドレ・プレボー教授のもと微生物及び醗酵について学ぶ。87年コフナ社社長就任。IFOAMフランス有機農業の制度作成に寄与するなど有機農業への造詣も深い。セーヌ・エ・マルヌ県商工会議所国際委員会議長。コフナ農法普及協議会特別顧問。

助成金をもらう農業から 納税者に食の価値を還元する農業へ

EU農業の
今から読み解く

「消費者にとって品質の中でも最も関心が高いのが農産物の栄養面。農業者がこの期待に応えるためにできることは何か。それは良質な土壌管理しかない」

ヨーロッパでは社会が農業者に求める役割が大きく変化してきています。それは生産者が消費者および納税者に目を向け、マーケティングが求められるものを生産することに他なりません。しかし、農業者がマーケティング・ニーズに応える農業生産をする自由が必ずしも保証されてきたわけではありません。助成金の大半が従来、生産量に連動して支給されてきたため、農業者は需要に対応するより特定の作物をたくさん作った方が利益を得る近道だったのです。

この仕組みは納税者にとって、自分達が負担する税金の使い道として納得できず、消費者としてもその対価を享受することができません。EU（欧州連合）にとっても同じく、いくら税金を農家に投入しても明確な社会への見返りを期待できませんでした。

市場志向の農業者を支援

こうした背景の中、EUは2003年、社会における農業者の再定義を行いました。農業分野への支援を生産量ではなく、納税者の望む高品質な農産物や安全な食品、環境への配慮に関連づけたものにするというCAP（EU共同農業政策）の抜本的な転換です。言い換えれば、商品の競争力と市場志向の向上を目指す

す農業者を支援していく方向性が決定付けられたのです。

現在、EUの農業経営のあり方は2つの形態に分けられてきています。ひとつは、低利益大量販売の大手流通を相手に、大規模な生産を展開する経営者。もうひとつは、製品の品質やトレーサビリティ、環境マネージメントを武器に特定ターゲットの消費者を相手に、平均的か小規模な農地・牧場を経営する生産者です。どちらも多様な消費者の要望に対応する重要な経営形態です。どちらの形態を選択するにせよ、土を耕し作物を植え収穫する、あるいは家畜を育てて市場に出す、というように農業の基本的な行程は変化していません。変化したのは規模の大小にかかわらず、農業技術の革新を活用し、コストと利益を強く意識しながら事業を管理しなければ競争に生き残れないということです。

「市民」と「消費者」2者の要望

農業者はさらに、農業生産のあり方に対して消費者の監視や圧力が日増しに強くなっている傾向にも注視する必要があります。その原因は、ヨーロッパ全域で農家人口の減少と都市人口の増大が進んでいることと無関係ではありません。それ以上に、都市社会において人は「市民」と





「消費者」という2つの顔を持ち、それぞれの要望が対立していることが原因です。市民としては環境への配慮や美観、動物愛護を求め、できればすべて有機農業になればと望んでいます。と言いつつも同じ人が消費者としては、できた有機農産物に適切な代金を支払う用意ができていくわけではありません。生産者の多くがこの2つの要望の間で板ばさみになっており、環境規制の少ない外国の競争相手がより低価格で農産物を供給していることに危機感を感じています。実際の経営判断においても、消費者の代弁者である「スーパーマーケット」の要求と市民の代弁者である「政府（EU）」の規制のどちらにウエイトを置けばよいのか悩むところです。スーパーは安さと品質を求めEUは食品の安全性確保に向け畑から食卓までのトレーサビリティの強化を行っています。

品質の持つ多様性

安全性はもちろん、味や食感、色、栄養価などといった従来からある品質要件がますます重要になってきています。消費者の力が大きくなったことで、農業者の間で品質の高い製品をマーケットに供給するという自覚が生まれ、品質で優ることがビジネス成功の鍵となってきたからで

す。その中で地域独自の気候や風土に合った伝統的な商品性も品質を構成する要素になるでしょう。例えば、「シャンパン」という名称をフランスのシャンパーヌ地方で育ったブドウで生産したワインにだけ使用しよう、という動きもその一つです。また、どういった生産方法で栽培しているか公開し、商品の衛生管理面を訴えるのも品質の一要素でしょう。いずれの場合も農業者は、第3者による認証でその品質を実証できなければなりません。なぜなら、消費者は誰でも嘘のない情報に基づいた食品の選択ができるという権利を尊重して欲しいからです。

消費者にとって品質の中でも最も関心が高いのが農産物の栄養面。農業者がこの期待に応えるためにできることは何でしょうか。それは良質な土壌管理しかありません。自分の畑の土の潜在能力や限界、農作業が土の特性に与える影響、そして作物が必要とする肥料成分の時期と量を理解しなければなりません。土壌の状態が作物の収量と品質をコントロールし、ひいては食する人間の健康にも影響しています。土壌の肥沃度を示す重要な指標とされるのが有機物含有量。EUでは現在、微生物を利用した有機物の管理が広く理解され普及しています。

■マニュエル・モロー社長 講演資料（全19頁）をお届けします

ご希望の方は、下記コフナ農法普及協議会まで電話、FAXもしくはe-mailにて送付先ご連絡ください。無料にて送付致します。

目次 1.フランス及びヨーロッパ諸国における農業・農産物の傾向 2.ヨーロッパにおける化学肥料 3.土作りの重要性 4.農業従事者の豊かな生活のために

平成18年コフナ会表彰者



小泉 幸英さん(愛知県)

作付品目：キュウリ18a

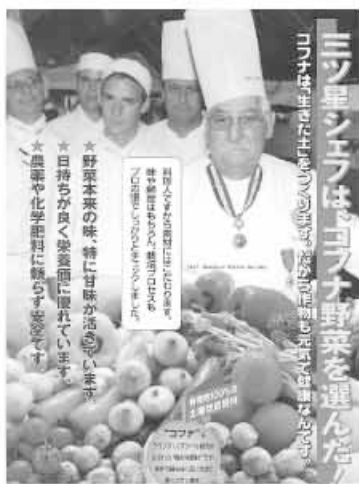
1989年、ネコブセンチュウ対策の一環として「コフナ」を使用し始める。現在、「コフナキュウリ」は市場にて高い評価を得ている。



石川 隆夫さん きよ子さん(愛知県)

作付品目：梨70a

コフナ農産物としてほぼ全量直売にて販売を行う。「コフナ」を使用し始めてから、梨の糖度は平均1度以上向上。「量」より「質」を重視した栽培を心掛けている。



世界の土を知り抜いた微生物資材!

コフナは農業先進国フランスのパスツール研究所で開発された資材です。
世界で最も長く広い地域で使われている国際ブランドです。
100種類以上の有益微生物が酸素の有無に係らず高温・低温下でも活発に働きます!

COFUNA®



コフナ農法普及協議会

事務局:ニチモウ株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川2-20-5
TEL:03-3458-4369 FAX:03-3458-4329 e-mail:info@cofuna.jp
URL:http://www.cofuna.jp